

1. 「こころ」と「からだ」の両面から、子ども支援と障がい・高齢者支援

2. 活躍の場は病院だけではない！ 社会課題を見つけ解決できるマインドを養成

3. 国家試験対策への徹底サポートで高い合格率と確かな進路を実現



人のこころとからだを
理解して、
チーム医療を支える人材に。

1 回生

作業療法を知り、医療人としての基盤を築く

人体の構造や機能、こころの働きについて広く学ぶ。作業療法の理念を知り、主体的に学ぶ姿勢や医療人として遵守すべき態度を身につける。

- ✔ 主体性
- ✔ 基礎知識
- ✔ 課題発見力
- ✔ 幅広い教養
- ✔ 科学的アプローチ
- ✔ 論理的思考

PICK UP 科目

- ・ 作業療法学概論
- ・ 人体の構造と機能演習Ⅱ
- ・ 人体の構造と機能演習Ⅰ (呼吸・循環系、消化系など)
- ・ 臨床見学実習

作業療法とは何か、人体の構造(解剖学)や機能(生理学)などの基礎を学び、臨床現場の見学を通して病院や施設の機能とそこで働く専門職の役割を理解する

こんな経験もRECOMMEND

発達に気になる子どもに対する「遊び」を用いた小グループ療育活動にボランティア参加してみる

2 回生

作業療法の基礎を身につけ、専門性を高める

作業療法を行うために必要な基礎医学や、医療職としての専門性とは何かを講義、演習、臨床実習を通じて理解を深め、自身がめざす作業療法の方向性を意識する。

- ✔ 道徳観
- ✔ 人間性
- ✔ 探究心
- ✔ 基礎医学知識
- ✔ 検査・測定技術
- ✔ 役割理解
- ✔ 在宅支援の援助
- ✔ 論理的思考
- ✔ 専門性

PICK UP 科目

- ・ 地域作業療法学
- ・ 臨床検査実習
- ・ 地域作業療法学演習

地域で実践される作業療法について、実際の活動や事例検討を通じて考える力を養う。臨床現場では作業療法の検査(面接、関節可動域検査、徒手筋力テスト、心理テストなど)の場面に触れる

こんな経験もRECOMMEND

地域の高齢者の就労の活動や「ものづくり」教室にボランティアとして参加し、「作業」を通じた健康づくり(ヘルスプロモーション)について学ぶ

3 回生

社会の中で作業療法を
実践する

将来を踏まえてコース※を選択し、作業療法の専門性をさらに深める。地域社会での活動を多く体験し、実際の社会課題に触れながら作業療法士として介入する手段を考え実践する。

※こころと子どもの支援コース/地域の医療と福祉コース

- ✔ 専門性
- ✔ 知識と技術
- ✔ 計画力
- ✔ 論理的思考
- ✔ 課題発見力
- ✔ 研究技法
- ✔ 実践力

PICK UP 科目

- ・ 地域包括ケアシステム演習
- ・ 地域実習
- ・ 臨床評価実習

地域における自立支援と就労支援について学ぶ。実習では、在宅支援に関する作業療法の実践や、実習指導者の指導のもと実際に面接、検査・測定、評価を行う

こんな経験もRECOMMEND

作業療学科海外研修に参加して、マレーシアの医療や作業療法について学び、異国の文化に触れ、国際的な視野を広げる

4 回生

真に人の役に立てる
作業療法の創造をめざす

作業療法学に加え、医学領域、心理領域、地域課題領域など、これまで学んできた知識・技術を統合して、こころとからだの両面から作業療法を創造し、社会に貢献できる力を養う。

- ✔ 論理的思考
- ✔ 専門性
- ✔ 研究技法
- ✔ 課題解決力
- ✔ 多職種連携
- ✔ 創造力
- ✔ 実践力
- ✔ 応用力



PICK UP 科目

- ・ 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・ 卒業研究

医療提供施設や福祉施設において、これまで学んできた知識や技術を踏まえ、作業療法の一連の過程を経験し、総合的な実践力を身につける

こんな経験もRECOMMEND

看護学科や作業療学科の4回生、京都薬科大学学生とともに合同多職種連携教育(IPE)で、専門性を活かしつつ医療チームとして協働しながら事例検討を行う

将来の進路

- 病院
- 診療所
- 介護老人保健施設
- リハビリテーションセンター
- 各種福祉施設
- 療育センター

など

取得できる資格
作業療法士国家試験受験資格